安曇野市のこどもたちがつくる

ローカルマガジン

AZUMO

2025 MARCH
AZUMO
【アズモ】
Vol.4
TAKE FREE

まるごと一冊 お船祭り

大解剖

こどもローカルマガジン
COLOMAGA project
コロマガプロジェクト | 安曇野市

安曇野市のこどもたちがつくる

ローカルマガジン

AZUMO

AZUMO【アズモ】Vol.4

2025年3月 第一刷発行

発行人 COLOMAGA Project 安曇野創作実行委員会

後援 安曇野市教育委員会

GOOD DESIGN AWARD 2023

KIDS DESIGN AWARD 2018

こんにちは！AZUMOです！

AZUMO(アズモ)は、有志で集まった安曇野の中高生たちが、プロクリエイターと一緒につくる地域情報誌(ローカルマガジン)です。全員で誌面の構成を考え、取材を通じて得た内容をイラストや文章、写真で表現し、一つひとつの記事を完成させました！

表紙と目次の絵をコラージュでつくりました！

記事に使用しなかった写真を再利用。

こどもたちの自由な発想で制作。

Vol.4のAZUMOができるまで

自ら手を挙げて参加した、安曇野在住の中高生クリエイターたち。
年齢も学校も異なる中、チームづくりから取材、記事の素材制作まで、
サポートクリエイターとともに長い時間をかけてこの一冊をつくりあげました！

8月～9月 編集講座

編集講座・台割制作

文章・写真・イラスト講座

8月～10月 取材

記事制作

10月～12月 記事講座

記事・表紙制作

コロマガサミット

デザイン完成

冊子発表会

協賛募集中！

本活動は「サポートパートナー（企業・個人）」からの協賛金を冊子印刷代や講座会場代などに充て、運営しています。

次号以降も活動を継続するため、そしてより多くの人へAZUMOを届けるため、応援してくださるサポートパートナーを募集中です。ぜひご連絡お待ちしております！取材・視察・コラボなどもお気軽にご相談ください。

協賛特典

1. 冊子へのロゴ掲載
2. 完成冊子のプレゼント
3. 活動報告レターのご送付

など

申込方法

申込フォームをご記入の上、お振り込みください。1口／11,000円より随時お申し込みいただけます。

申込フォーム

SNS & お問い合わせ

colomaga.azumino@gmail.com

目次

03 AZUMOができるまで
04 御船はどうやって作られているの？現場に突撃！
06 御船祭の文化を守るクリエイター集団 穂高人形保存会
08 睦友社の人形づくりにかける想い
10 待ちに待った御船祭本番
12 Why?御船祭
14 地元だけど知らなかった・・・実はたくさんある安曇野のお船祭り
16 編集後記
18 コロマガプロジェクトとは

タイトル題字 めい

＼Vol.4のテーマ／

まるごと一冊 お船祭り 大解剖

安曇野では、各地域で「お船祭り」という祭り文化が今も受け継がれています。この祭りでは、山車(だし)のことを「お船」と呼び、その お船の上に伝説や歴史の一場面を再現した人形を飾ります。各地域でお船の形状や祭りの内容が異なるのも「お船祭り」の特徴です。今回、8回にわたる取材を通じて、このお船祭りを支える人々にスポットを当て、祭りにかける想いやこだわりに迫りました。

※本冊子では、現地での使用に準じて、市内で開催される祭りを「お船祭り」、穂高神社で開催される祭りを「御船祭」と表記しています

睦友社（ぼくゆうしゃ） 御船づくりのプロフェッショナル

『睦友社』に参加している人は、安曇野市の「穂高区」という地域に住んでいる人たち。参加する上で年齢制限はないのですが、現在は最年少は30歳、最年長は91歳です。中には、18歳の頃から40年以上、御船祭にかかわっている人もいます。

取材当日の『睦友社』社長 竹川 孝さんに聞いた 船張りの工程

竹川さんが御船祭にかかわるようになったのは、中学の時。子供船でお囃子をやったのがきっかけです。最初は船をつくりたいというよりも、船を曳きたいという気持ちで30代のときに睦友社に入りました。

1 土台に左右2本ずつ長い木を交差させて固定したら、船を片側に倒す。その木の上に短めの木をはしご状に取り付ける。（もう片側も同じことをする）

2 約12mの太い木（横木）を土台に載せて、ボルトや金具で固定する。

3 細めの木を、船の外側に弓のようにしならせながら取り付ける。左右のバランスを見ながら、膨らみ具合を調整する。

御船はどう作られているのか？ 現場に突撃!!

ライター あーね／取材 あーね、いろはす／イラスト ナオ／カメラマン しおんず、ナオ、めい

前方：男腹

船首をイメージした、すっとした丸み。
完成したら男物の着物を飾る。

後方：女腹

船尾をイメージして、下方向に丸みを持たせる。
完成したら女物の着物を飾る。

御船づくりの工程

- 人形作り
- 8月中旬 船に使用する木の切り出し
- 9月頭 船張り
- 9月26日 飾り付け 暦の関係で、祭りの前の日曜日に行う場合もある
- 9月27日 本番

睦友社の人形づくりにかける想い

ライター いろはす／イラスト めい／カメラマン ナオ

Q 睦友社ではいつから人形づくりをしているんですか?

A 自分たちで始めたのは3年前からですね。

Q 人形をつくることになったのはどうしてですか?

A 以前は大人船の人形づくりを他の方にお願いしていた時期がありました。神様には船とお囃子と人形の3つをセットにして奉納するんですが、僕たちは船をつくれるし、お囃子もできる。だからこそ「自分たちでも人形づくりができるようになろう」って決めて、人形づくりに挑戦することにしました。

Q 睦友社の人形担当は何人くらいいるんですか?

A 基本的に人形担当はなくて、睦友社のみんなでやっています。

Q 楽しいなって思うことって何ですか?

A みんなで和気あいあいとしながら作業するのは楽しいです。僕はもうちっちゃい頃からやってるんで。まわりは昔から知ってる父親みたいな人たちですね。

Q 人形を作っていて大変なことって何ですか?

A 締め切りが決まってるんで、逆算してスケジュールを組むのが大変です。どのくらい予定通りに進むかを見ながらの作業調整はいつも課題です。

Q ここ見て欲しいというポイントは?

A 鬼の顔と目。腕のいい技巧師がいるんですよ。目も凝ってててすごいでしょ?

Q 今回の人形のテーマはどうやって決めたんですか?

A みんなで話し合いです。今年は能登地震もあったんで、石川の物語である「猿鬼伝説」をテーマにしようとなりました。ちなみにおととしはウクライナの侵攻があったから白虎隊。去年は原点回帰で安曇比羅夫でした。

副人形長
梨子田(なしだ) 純輝さん

Q 人形を作っていて大変なことって何ですか?

A 大変なことばっかです。特に表情や手、足とか、そういう細かなところはまだまだ頑張らないと。人形の数が増えるとそれだけ手間かかるので、今は出来るだけ人形の数が少ないシーンや簡単そうなシーンを選ぶようにしてます。

人形長
堀内 雅士さん

Q ご出身は穂高ですか?

A 私は山梨県の出身です。睦友社には先祖代々ここに住んでるって人も多いけど、地元出身じゃない人も半分くらいいるんじゃないかな。

Q 楽しいなって思う時は?

A やっぱりこうやって形になって、無事お祭りを終えたときですね。

Q どんな想いを込めてつくりましたか?

A 能登の震災復興への気持ちを込めて物語を調べたんです。ただなかなか猿鬼の細かい資料がなくて苦労しました。でもこれをきっかけにみんなでまた能登に遊びに行くようになればいいなって思います。

Q 猿鬼(さるおに)伝説とはどんな物語なんですか?

A 猿が悪さをしているうちに鬼になり、暴れ回ったため、村の人たちは困り果てていました。そこで、女神様にお願いして退治を試みようと矢を放ったのですが、猿の体に漆が塗られていて失敗してしまったんです。その後、出雲大社で他の神様に相談したところ、目だけは漆が塗られていないことに気づきました。そして、神様たちが協力して見事に猿鬼を退治することができた…という話です。いま作っているのは、猿鬼を誘い出すために、女神様が踊りながら他の神様と宴会をしている場面です。猿鬼が「なんか騒々しいな」と思って洞窟から出てくるところですね。

御船祭の文化を守る クリエイター集団

穂高人形保存会

穂高神社の御船祭には大小5艘の船が登場しますが、
それぞれの船の上に飾られているのが「穂高人形」。
毎年新しく作り替えることや、ひとつの物語の一場面を再現する点が特徴です。
この貴重な伝統を守り伝えているのが「穂高人形保存会」です。
今回は、その保存会のひとつ「保尊教室」のお二人にお話を伺いました。

ライター いろはす／イラスト・カメラマン ナオ

人形づくりの技術を未来につなぐ 穂高人形保存会に迫る!

穂高人形とは?

穂高人形には作り方や材料にルールはなく、「穂高の人が作った御船祭に奉納する飾り物」のことを穂高人形と呼ぶそうです。穂高人形は「穂高神社の御船祭の習俗」として県の無形民俗文化財に指定されています。なぜ「無形」文化財なのかというと、祭典に使うだけで他には使わず、祭りが終わったら頭や腕、体や衣装などは解体してしまうからです。だからといって、何ヶ月もかけて苦労して作ったものを捨ててしまうのはもったいないため、教室や倉庫、それぞれの家で保管しているものもあるそうです。

穂高人形保存会とは?

穂高人形の伝承をしている穂高人形保存会。小平(こだいら)教室・牛流(ごりゅう)教室・保尊(ほそん)教室の3つのチームに分かれ、人形づくりの技術を継承しています。私たちが今回取材させていただいた保尊教室では、保尊先生と10名の生徒さんで活動しているそうです。保存会は人形づくりの文化の維持が難しくなるなか、この文化を残したいという想いから、平成13年に結成されました。維持できなくなった背景には、職業の多様化やお祭りの参加が自由意志になったことなどが挙げられるそうです。

また、保存会はあくまで「穂高人形の伝承のための団体」なので、お祭り以外にも市内のさまざまなイベントで作った人形を展示する人形づくりをしています。また保尊教室では、冬休みにこどもたちが人形づくりを体験する講座もやっています。

中村屋カリーの生みの親 相馬家に伝わるカッパ伝説

この日、保尊教室のメンバーが制作していたのは、2024年の穂高神社の御船祭で、睦友社の子ども船に載せる穂高人形です。今年のテーマは「相馬家のカッパ伝説」。中村屋カリーで知られる『新宿中村屋』の創業者のひとり・相馬愛蔵の家に伝わる話で、「相馬家の先祖が馬にいたずらをするカッパを捕らえたところ、カッパが許してもらう代わりに、薬や病気の治し方を教えた」といわれています。「相馬家のカッパ伝説」を題材にしたのは、「地元の伝説だけど、知らない人が多いから」だそうです。また、「今まで誰も作ったことのないものをどう作ればいいか考えながら挑戦したい」という思いも込められているそうです。他の教室では、戦国時代の武士の伝説をテーマにすることが多いですが、保尊教室は伝説や民話を選ぶことが多いそうです。それは、「人形を見て、みんなが大切なことに気づいてくれるとうれしい」という先生の願いがあるからだそうです。

こんなところにもこだわりが!?

人形のココを見て!!

人形の頭と衣装を担当しました。見てほしいのは人形の表情。今回は、口を開けてびっくりしているようすを表現しました。人形には表情がないと面白くないので、特にこだわっています。衣装には寄付していただいた着物を使っていますが、そのままではサイズが合わないので、人形に合わせて作り直しました。着物の柄もその時代に合ったものを選び、できるだけリアルに再現しています。

保尊教室 教室長
山田 孝さん

カッパの制作を担当しました。カッパは裸なので、服で隠せない部分の肉付けや甲羅、顔の造形が特に難しかったですね。どうすればもっとリアルなカッパに見えるかを考えながら、誰もが思い浮かべるようなカッパに近づけるよう工夫しました。また、パッと見たときに「このカッパいいね!」や「この表情、面白いね!」と思ってもらえるよう、材料選びや作り方にもこだわりました。

保尊教室
竹川 郁夫さん

ドッコドッコ

ワーワー

ガシャン！

ドッコドッコ

ドッコドッコ

ワイワイ

待ちに待った御船祭本番

ライター あーね／イラスト しおんず、いろはす／カメラマン めい

9月27日の御船祭本番。穂高神社で開催される年に1度の大イベントです！ 普段は厳かな雰囲気に包まれている神社も、この日はかなり人が多く、御船がぶつかるときにはその日1番の盛り上がり。皆さんスマホを片手に動画や写真に収めようとしていました。思っていたより迫力や勢いがあり、とても驚きました。このページではそんな御船祭の雰囲気や臨場感などをたくさんの写真を通してお伝えします。

境内には子供船がズラリ！

等々力町区

穂高町区

穂高区

穂高神社の御船祭でぶつかり合うのは「大人船」だけですが、3つの地区が手がけた「子供船」も披露されます。「子供船」は、「大人船」より少し小さめですが、船の上にはそれぞれの地区ごとに、テーマの異なる人形が飾られており、見応えがあります。

観客の視線が一斉に御船に集まります

うおおおおー!!

御船が近くにやってきます

2つの御船がだんだん近づいていきます

ワイワイ

健壮団チーム 穂高町区＋等々力町区

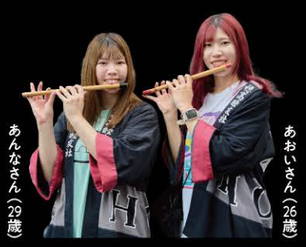
がやがや

がやがや

太鼓と笛が響く、御船祭のお囃子！

お囃子では、大太鼓、小太鼓、笛、チャンチャン（小さいシンバル）の4つの楽器を使います。練習は7月末から約2か月間、週3回行われています。今年は、中学3年生の女子が団長と副団長を務めました。昔は20人以上の参加者がいましたが、最近は人数が減ってしまったため、OBOGにも参加の協力をお願いしているそうです。

ピーピーピャララララー



あんなさん（29歳）

あおいさん（26歳）

今日は大人船に乗って笛を吹いていました。実はこどものときにお囃子を8年間やっていました。今回は助っ人として仕事を休んで来ました。昔からお祭りが好きだから、出れるなら出たいと思って。船に乗って笛を吹くのも、ぶつかるのも楽しいです。大人の女性が大人船に乗ったのは実は今回が初めて。ここからずっと繋がっていってくれればいいなと思います。

いくぞっ！

おせーっ!!

おおー!!

ドッソー！

ワーワー

よーしかかれー!!

健壮団の船の女腹に、睦友社の船の男腹がぶつかります。子孫繁栄や五穀豊穣などを願ってぶつかるといわれていて、勝ち負けなどはなく、ぶつかり合いが終わるタイミングも、その年のリーダーや雰囲気で決めます。3回だけの時もあれば、5、6回ぶつかるときもあるそうです。

会場の雰囲気がどんどん盛り上がってきました！

御船が神楽殿を回ります

いよいよ御船の入場

睦友社チーム 穂高区

がやがや

ワイワイ

がやがや

ドッコドッコドッコ

御船祭
ー知る人ぞ知る　船の秘密ー

Why?

海なし県なのに、なんで船？

古代、現在の福岡市周辺で活躍していた一族がいた。名を「安曇族」といい、非常に航海術に長けた一族であった。大陸ともやり取りをし、一説によれば太平洋をまわった者もいるという。進んだ技術をもって全国に広がっていった安曇族は、当時とても高価であった翡翠（ひすい）がよくとれる糸魚川（いといがわ）に入ったのちに安曇野へたどり着き、開拓を行った。こうしてこの地に移住した安曇族が海と深く関わりがあったことから、祭りのモチーフが船になったといわれている。

古くから安曇野の地で受け継がれてきたお船祭りですが、「長野県は海がないのに、なんで船なの？」「なんで毎年9月27日に開催するの？」などの疑問がある方もいると思います。そこには壮大な歴史があり、古くこの地域に開拓に来て住みついた一族が関係してきます。しかし、祭りに関する資料や解説本は少なく、歴史を知る機会もなかなかありません。そこで本ページでは穂高神社の境内にある「穂高神社 御船会館」で、穂高神社の禰宜（ねぎ）の等々力さんにお聞きした御船の歴史から私たちが特に気になった小ネタをまとめました。これを読んで興味が出たらぜひ御船会館へ足をお運びください！

Why?

人材不足と担い手の多様化

近年、社会では少子高齢化が進み、船の作り手や曳き手、笛・太鼓手などが減少している。そこで各神社では、地域の人以外でも参加できる取り組みを始めている。ＡＬＴ（外国語指導助手）の先生が参加できるように企画したり、外部の人にも担ぎ手を募ったりしている神社もある。

Why?

昔は船を担いでいた!?

今は船を“曳（ひ）く”方法で地域を巡行しているが、昔は神輿（みこし）のように担いで町内をまわっていた。当時は神様の御神体や御幣、鏡などを乗せてまわっていた。しかし人形を飾るようになり、重く担ぐのが困難になり、車輪を付けて船を曳くようになったそうだ。

Why?

本祭はなぜ9月27日なのだろう？

これについては様々な説があるようだ。2つ紹介しよう。

①松本藩の使者説…江戸時代、松本藩はお祭りが行われる神社に使者を送っていた。この地域は7～8月に多くのお祭りが行われていたため、藩主が使者を忘れないようにする目的で、近隣の神社で行われる祭の日と近づけたという。

② 安曇比羅夫（あづみのひらふ） 説
…663年に起きた白村江の戦いにて、安曇族の「安曇比羅夫」が大将として日本海軍を指揮し、戦死した。彼の命日が9月27日であったため、毎年この日に祭を行っているという。

Why?

大事なのは“神への感謝”

どういうことが“神への感謝”になるのだろうか？等々力さんは「元気よく御船を曳いてくることが感謝」だという。穂高神社本祭の最大イベント“御船のぶつけ合い”も、元気に豪快にやっている姿を神様に見せる、それが神様へ感謝を伝える、この祭りの目的だそうだ。

Why?

祭りが続く理由

「地元の人たちが神様に感謝して、今後のご利益や自分たちの安全を願う」、そんな思いが続いているからだそう。「本当に神様に感謝をしてやっているのが“お祭り”だと思う」と等々力さん。

ライター ナオ、めい／イラスト いろはす、めい、あーね／カメラマン しおんず、ナオ、めい

等々力 良勝さん

神主であった父の影響で神職の道へ。神奈川県の寒川神社で5年間奉仕し、平成5年に穂高神社へ。権禰宜（ごんねぎ）を経て現在禰宜（ねぎ）を務める。

穂高神社 御船会館

住所:安曇野市穂高6079

御船会館では、実際の御船や人形、古文書などの史料が展示されており、御船祭について知ることができる。

地元だけど知らなかった…

実はたくさんある お船祭り

ライター いろはす／カメラマン めい／イラスト・熊野神社レポート ナオ／4.15.16.18番の神社写真提供 安曇野市教育委員会

これまで私たちは、穂高神社の御船祭に携わるチームの一つ「睦友社」や、「穂高神社　御船会館」で歴史に関する取材をしてきました。ですが、お船祭りは安曇野市内だけで19か所もあって、各地域の人たちが自らのお船をつくりながら、伝統を守り続けているんです。このページでは、昔から長く受け継がれている市内のお船祭りについてまとめました。

船を2.3kmも曳く負担を減らすため、なんと屋根を外した軽トラックを土台にして船を作るというユニークな工夫をしている。

昔は3艘の船を曳いた大きな祭りだったけど、一度は廃れかけてしまった。今は復活して2艘の船と飾り物を飾った舞台が披露されている。

200本以上のろうそくを船に取り付け、地区内を曳いて回ります。暗闇に浮かび上がるろうそくの明かりは、圧巻の光景!

今回メインの取材先
本番の様子はP10へ

今回、お話を伺ったのは、安曇野市役所職員の山下さんです。文化財を守り伝える仕事を長年続けていて、研究者とともに安曇野平55地域のお船祭りについて調査報告書にまとめた経験もあります。そんな山下さんに、お船祭りについていろいろ教えてもらいました!

毎年、新しい船を作るのはなぜ?

安曇野では昔から各地域でそれぞれのお船祭りが行われてきたそうです。祭りがいつから始まったのかは、はっきりとわかっていません。少なくとも『穂高神社』のお祭りについては、元禄2年(1689年)の記録が残っています。そして、安曇野のお船祭りの一番の特徴は「毎年新しい船を作ること」だと山下さんは話します。一般的に地域の祭りで使う神輿や山車は保管して次の祭りでも使いますが、安曇野のお船祭りでは祭りが終わると船を壊し、翌年にまた作り直します。なぜ毎年新しく船や人形、飾り物を作るのでしょうか?それは「神様に新品を奉納することが大切」とされているからです。その証拠に、古文書には「去年の木を使ったら怒られた」という記録も残っています。

消えゆくお船祭りの文化と復活への想い

安曇野市のお船祭りは、大正時代から昭和の初めにかけてが最も盛んでしたが、どんどん減り続けていて、現在開催されている祭りは市内19か所のみです。(2024年10月現在)祭りが減っている大きな理由は、働き方の変化や少子高齢化といわれています。祭りを開催するには、船づくりに使う木を山から切り出したり、こどもたちを集めてお囃子の練習をしたり、たくさんの準備が必要です。仕事をしながら、毎週の活動を手伝える人がなかなか集まらないため、祭りの継続が難しくなっているのです。一方で、いったん途絶えていた祭りを復活させた地域もあります。「楽しい思い出をもう一度」という声が集まり、地域の人々が協力して祭りをよみがえらせたそうです。山下さんは「祭りはこどもからおじいちゃん、おばあちゃんまで、世代を超えて交流できる貴重な場。祭りは地域をつなぐ大切なイベントだと思うんだよね。」と話していました。

山下 泰永さん

安曇野市豊科生まれ。学生時代に文学部史学科で考古学について学ぶ。昭和62年に穂高町役場に就職し、文化財関係の仕事をしていた。市町村合併をして文化財関係から離れたが、平成24年10月に文化課に就任し文化財関係の仕事に戻った。

山下さんイチオシ

市内唯一の担ぎ船! さらに、祭りの最後に山の斜面から船を落として、木が折れるまで壊しちゃうという、他の地域にはない風習がある。

ナオが直撃! 熊野神社 お船祭りレポート

8月25日、三郷中萱の熊野神社にて行われたお船祭りに参加してきました! 暑さと闘いながらの取材でしたが、太鼓を演奏するこどもたちや、笛を演奏する大人たち、お船を曳く地域の人々など、年齢・性別を問わず、たくさんの人が参加している様子がとても印象的でした。人形の作成や太鼓指導、当日の進行などは、有志による「中萱紫石会」が行っています。会長の岩井さんは「お船が世代を超えて受け継がれていくことが大事」と話していました。

船がとにかく大きい! 横幅13m、高さ7mで県内最大級といわれている。人形にも力を入れていて見応えがある。

1 住吉神社
2 熊野神社
3 真々部諏訪神社
4 岩原山神社
5 牧諏訪神社
6 重柳八幡宮
7 矢原神明宮
8 穂高神社
9 富田伊夜比古神社
10 豊里穂高神社
11 嵩下舘宮神社
12 新屋諏訪神社
13 古厩大宮神社
14 立足諏訪神社
15 和泉神社
16 荻原神社
17 上生野八幡宮
18 潮神明宮
19 犀宮社

編集後記

中高生クリエイターが実体験した

制作の裏話

作業がひと通り終わったタイミングで、
中高生たちの本音を聞き出すべくアンケートを実施！
改変無しの生の声をお届けします。

中高生クリエイター

あーね

いろはす

しおんず

ナオ

めい

いちばん心に残ったことは？

台割を決めるときに、誰ひとり意見が合わなかったこと。各々ちゃんとした理由があっての意見だったので、ひとつにまとめるのが大変でした。でも、**たくさん話し合って最終的に全員が納得できたのでよかったし、本気で話し合えたので仲も深まったと思います**（いろはす）

仲間と一緒にどんな構成、どんな雰囲気の記事にするか話し合ったこと（めい）

頭をフル回転させて（サボクリの力を借りながら）、タイトルを絞り出したこと（めい）

素材作りで大変だったことは？

表紙を写真のコラージュで作ったのが一番大変だった（あーね）

とにかく時間が足りない（めい）

記事内でイラストや文章の方向性が異なったとき、どちらに統一するか悩んだこと（めい）

この冊子を読む人にどんなことを伝えたい？

お祭りの活気や本番に至るまでの大変さ、面白さが伝わってほしい（あーね）

安曇野のお船祭りは複数あり、それぞれ特色があること。祭りの本番に行った人、そうでない人も同じように**お祭りの迫力**を伝えたい（めい）

取材時に面白かったことは？

解体中のお船に乗せてもらえたこと！

結構高くて怖かったけど、なかなかできない体験で楽しかった！（いろはす）

ひとつ質問したら、話し出したら止まらなかったこと（しおんず）

お船の飾り付けの時に、**いきなり猿の第一関節を切ってたこと**（あーね）

睦友社のみなさんの癖が強いこと強いこと…（笑）（めい）

取材時で大変だったことは？

予定通りにいかないことが多かったこと。取材したい人がいなかったり、逆に予定になかった取材をすることになったりしたのは、ちょっと大変だった（いろはす）

取材相手が話していることを頑張ってメモしていたら、会話が止まってしまったこと（あーね）

お船の写真を撮るとき、サボクリのしゅんくんが人混みの前線に乗り込んだと思ったら、写真好きのおじさん方の小競り合いに巻き込まれたこと（めい）

カメラが重くて首にキタ（しおんず）

取材の人に、学んだことは？

何もわからないところからでも、何とかしようと努力すること（めい）

お祭りをなくさないように取り組むひたむきさ（めい）

他の中高生クリエイターに学んだことは？

毎回思うが**一人ひとり考えが違うので、自分の考えつかないようなものが多くあった。**（めい）

サポートクリエイターに学んだことは？

写真を撮る時、自分が移動して位置を考えるのが大切だと教えてくれた（しおんず）

オンとオフの切り替え。作業する時はしっかり作業して、休む時には思いっきり休む。そのスイッチをパシッと切り替えてやってるのが、さすがだなと感じた（ナオ）

安曇野のこんなところが好き！

今号ではいろんな人に会って取材することが多く、安曇野の人たちの優しさに感動する場面が多々あった（ナオ）

サポートクリエイターに聞きたいこと

Q愛読書はありますか？（ナオ）

A「大貫卓也全仕事2 Advertising is」。自分の大学の大先輩であり「UNIQLO」のロゴを手がける佐藤可士和の師匠でもあるアートディレクター大貫卓也氏が手がけた広告の作品集。**仕事で悩んだ時やアイデアに詰まった時に読み返すと必ず発見と学びがある**我が聖書（しのぴい）

Q集中するときにおすすめの音楽は？（いろはす）

A自分の好きなジャンル、ノリの曲だけど、聴いたことのない曲か日本語以外の曲。知ってる曲や日本語の曲だと脳内で歌詞が邪魔してくるから（ようくん）

Q手放せなくなった便利グッズはありますか？（ナオ）

Aグッズじゃないけど、ChatGPTといったAIツールは毎日欠かせない存在です！仕事のアイデア出しや日ごろの悩み相談など、新しい視点をくれるので頼れる相棒です！（つっつー）

Qこどもの時に何かスポーツをやっていましたか？（あーね）

Aバスケットボール部に所属していました！部員の中で一番背が小さくて、それでも活躍できるよう自分の強みを分析したり、練習方法を調べたり、自分なりの工夫をしていたことはクリエイターの仕事にも繋がっているなと思います（なっちゃん）

Q仕事の他に趣味はありますか？（しおんず）

Aゲームと映画鑑賞、後は楽器演奏です。**基本エンタメ好きだから、趣味が全部仕事に繋がってしまう（笑）**「これは仕事です」って言いながらアニメ観れるのがクリエイターの特権だね（たろー）

Qカメラを買いたいのですが最初はどんなカメラがいい？（めい）

A見た目が気に入ったカメラが良いと思う。あと実際にファインダーを覗いてみたりシャッターを切ってみたりして、触っていて心地良いカメラが良いんじゃないかな（しゅんくん）

Q今までハマったゲームはありますか？（しおんず）

Aファイナルファンタジーシリーズ（1～10）。20年以上前にプレイしたけど、世界観やフィールドの風景、音楽が大好き。写真にも影響していると思う（しゅんくん）

Q仕事をしている時に意識していることは？（あーね）

A仕事中でもプライベートでも**常に、みんなにとって良い解決の糸口を探してる**（ならりー）

サポートクリエイター

本冊子の制作運営を行う『COLOMAGA Project 安曇野制作実行委員会』のスタッフ紹介

Editor

ならりー
楢畑 彩香
Ayaka NARAHATA

Designer

ようくん
廣瀬 陶
Yo HIROSE

Writer

つっつー
筒木 愛美
Manami TSUTSUKI

Photographer

しゅんくん
河谷 俊輔
Shunsuke KAWATANI

Editorial staff

しのぴぃ
篠 鉄平
Teppei SHINO

Videographer

たろう
永田 太郎
Taro NAGATA

Illustrator

なっちゃん
成田 夏紀
Natsuki NARITA

AZUMOの冊子増刷や冊子設置のご協力、視察や講演のご相談、
クリエイターへの仕事相談などについては、以下のメールアドレスまでご連絡ください。
colomaga.azumino@gmail.com（楢畑宛）

4期生 中高生クリエイター

AZUMO vol.4をつくりあげた、安曇野在住のAZUMOクリエイター［4期生］をご紹介します。自ら撮影した個性あふれる自己紹介動画は各QRコードよりご覧ください。

めい
大町岳陽高校1年

いろはす
三郷中学校3年

ナオ
三郷中学校2年

あーね
穂高東中学校2年

しおんず
穂高西中学校1年

サポートパートナー

本冊子へ協賛・掲載等のご協力をいただいた個人・企業・団体のみなさま（順不同）

TAKENOSU BAKE タケノス ベイク Azumino Nagano
SWEET since 1913 BAKERY & CAFE
あづみのファンリテーション部！
KIIYA cafe & hostel
SLOW
産園ものづくり みさと
Funatsuki 船着税理士事務所
MOCHI design
AZUMINO HERB SQUARE ハーブ専門店 安曇野ハーブスクエア
レストラン アベ
旬彩ダイニング ばんび BAMBI
TREK VOGEL
安曇野守隊 AZUMINO YAMAMORITAI
オカダ酒店
株式会社 柳沢林業
Azumino 小林農園
信州・安曇野・穂高 穂高神社
PENGUIN GARAGE
金峯山 牛伏寺
KEIUNDO DESIGN
さんさんハウス
長野トンボ株式会社
まるさわ設計室
Y.Mさん
N.Nさん
and more...

こどもローカルマガジン

COLOMAGA project

Point 1

子どもたちが自分のまちを取材し冊子を作る。

『COLOMAGA(コロマガ)』は、こどもローカルマガジンの略。子どもたちとプロのクリエイターが自分の“まち”を取材し、ローカルマガジン（地域情報誌）を一緒に作る非営利の活動です。現在、東京都、静岡県、山梨県、長野県などの1都1府5県18エリアが参画し、地域を超えた交流も行っています！

Point 2

見て聞いて感じたことをプロに学び、創造する。

自分たちが住む“まち”をもっと知るために、実際に足を運んで子どもたちが取材をします。プロのクリエイターに素材づくりのノウハウを教わりながら、写真を撮ったり、イラストを描いたり、文章を書いたりして、目で見て聞いて感じたことをカタチにしていきます。みんなの集めた情報をプロが冊子にまとめて完成です！

Point 3

子どもも大人も地域を知り繋がるきっかけに！

子どもたちが世代を超えて出会う人々と交わすコミュニケーションは、かけがえのない思い出や体験。“まち”の魅力を知れば知るほど好きになり、自分の居場所になっていく。“まち”のために何ができるだろうと考える人がひとりでも多く育って欲しい。『COLOMAGA Project』はそんな想いで活動しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ESD-J

KIDS DESIGN AWARD 2018

私たちの活動は、SDGsの「No.4-質の高い教育をみんなに」「No.11-住み続けられるまちづくりを」を実現する実践者として、ESD-J(持続可能な開発のための教育)の「未来を変える人づくり」活動として高く評価されています。2018年、経済産業省が制定した「キッズデザイン賞・子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門」にて受賞いたしました。

各地域で続々とコロマガ活動エリアが拡大中!!

GOOD DESIGN AWARD 2023年度受賞

COLOMAGA projectは10年間の実績と各地域の参加者の子どもたち大人たちの取り組みが評価されました。

東京都文京区「MiTa MiYo!!」VOL.05

静岡県伊豆の国市「IZUCCO」VOL.05

静岡県沼津市内浦西浦「うらっち」VOL.05

静岡県伊豆市「KURURA」VOL.12

山梨県北杜市「ほくとこ」VOL.5

神奈川県鎌倉市「こと こと」VOL.02

各地域のメンバー紹介

静岡県富士市「FUJIRA」VOL.03

静岡県富士宮市「misora」VOL.03

静岡県三島市「みしまんま」VOL.01

東京都目黒区祐天寺「ゆーマガ」VOL.01

神奈川県横須賀市「SUKATTO」VOL.01

旅するアレルギーっ子CAT「アレハピ」VOL.01

バックナンバー読めます！

企業・団体・個人さまとのコラボ募集中!!

立ち上げ・応援・視察・講演・コラボなど、コロマガはさまざまなカタチで参加することができます。詳しくは公式サイトよりお問い合せください。

- コロマガに参加したい
- コロマガを応援したい
- コロマガを視察したい
- コロマガの講演を聴きたい
- コロマガとコラボしたい

COLOMAGA Project 公式ウェブサイト

各地域ごとに有志で集い、資金調達にも日々励んでおります。
ご支援のほど、ぜひお待ちしております。